

JAL愛媛原告を支える会



ニュース



発行：JAL不当解雇とたたかう愛媛原告を支える会
連絡先：愛媛自治労連会館3F愛媛労連内
松山市三番町8-10-2 Tel 089-945-4526

私も

応援します

小さなことから

愛媛労連青年部 稲葉美奈子

支援の輪広げて

私がJALの不当解雇撤回闘争を知ったのは4年前に松山で開催された働くものの学習交流集会の企画でした。四国4県から集まった青年の学習会で、不当解雇がテーマでした。林さんが整理解雇の4要件を満たさない不当な解雇だ！と強く訴えていた姿に「かっこいいな…」と思ったのを覚えています。それからどんな集会でもお姿をお見かけし、結婚パーティにも来てくれました。遠くからでも「美奈子さ～ん！」と声をかけていただき、気がつくといつもこちらが励まされたいと思うようになりました。支援バッチをカバンに付けていると機内で客室乗務員

の方が話しかけてくれたことがありました。お話しすると私も同じ客室乗務員として応援していますと言って下さいました。別のときには機内にあったお客様の声にも書きました。小さなことですが、少しでも支援の輪が広がれたらいいなと思っています。

地裁での不当判決が出た日、涙が止まりませんでした。こんなことが許されてはいけないと思います。一日も早くみんなそろって職場に帰れるように青年部の中でも支援の輪と企業優先の不当な判決は許さないの声を広げていきたいなと思っています。

御巣鷹

への思い

「迷ったら安全を取れ」

西予市出身原告 大池ひとみ

11月某日、松山空港(支店)に初めての要請に行きました。事前に申し入れていたにもかかわらず、当日、支店長は不在でした。代理の総括マネージャーが対応してくれましたが、オフィスの中にも入れてもらえず、カウンター横のドアの前で立ったまま、原告と支援者がそれぞれ思いを伝えました。

総括マネージャーは、御巣鷹山の事故があった年に日本航空に入社したそうです。わたしはあの日、123便が羽田を発って伊丹へ向かった1時間後に、成田から同じ伊丹へ向かっていました。上空では何が起こっていたのか知る由もなく、伊丹空港に到着してから、ロビーに置いてあるテレビ画面で臨時ニュースを見たのでした。

あの夜はまんじりともせず、ホテルの部屋のテレビにかじりついていました。翌日、伊丹からホノルルへ向かう機内で、お客様から、「この飛行機はダッチロールはしないよね」「圧力隔壁は壊れてないよね」と心無い言葉を浴びせられました。無理もないことです。ご利用いただくお客様にとっては、ご自分の命を預けて飛行機にお乗りいただくわけですから、心

配なされるのも当然です。今日に至るまで、日本航空は数々の航空機事故を起こし、735名のお客様と、パイロットとスチュワードの命を奪いました。もう二度と事故を起こしてはいけません。「迷ったら、安全を取れ」と私たちは先輩から教わってきました。なのに、京セラの稲盛前会長は、「日本航空は、御巣鷹山がトラウマになっていない。利益なくして、安全なし」と豪語したのでした。「165名を解雇する必要はなかった」と法廷で証言すから」と3回も言い訳がましく述べた素人に、日本航空の未来を託したくはありません。

御巣鷹山の事故で、同年入社友人を失くしました。彼女は国際線から国内線に移って、もうすぐ結婚するはず



原告団キャラクター「クビなし君」(首ナツシ)

でした。まだ20代後半だった若い彼女の人生と、家族とその周りの人たちのすべてを狂わせてしまいました。あれから29年たった今でも、御巣鷹山に登ると、高浜機長が操縦不能になったジャンボ機をなんとか少しでも衝撃の少ない平地へ誘導しようとしてVの形に山をかすった跡を確認することができずに、乗客・乗員の無念さを感じ、胸がかきむしられる思いです。「絶対安全」、航空会社の社員はこの言葉を忘れてはなりません。

JAL 松山支店 要請行動 11.19 空港前宣伝

11月19日、JAL 不当解雇撤回裁判原告と愛媛労連、愛媛原告を支える会は、松山空港内の日本航空松山支店へ要請行動を行いました。要請には、林恵美、大池ひとみ原告のほか、竹下武愛媛労連事務局長、来島頼子新婦人愛媛県本部会長ら5人が参加し、空の安全確保のためにもベテラン乗務員を早期に職場復帰させるよう、日本航空本社に働きかけることを求めました。

<要請書抜粋>

パイロットの職場では解雇後、これまでに170名を超えるパイロットが途中で日本航空を退職しています。現在、パイロット訓練が再開され、新規の採用も始まりました。また、客室乗務員の職場では、すでに1820名もの新人が採用されて乗務に就いています。もはや被解雇者165名を職場に戻せない理由などはありません。戻さないのは、経営破たんを機会に、映画「沈まぬ太陽」に描かれた異常な労務政策のように、「もの言う労働者と労働組合役員」を排除することに解雇の真の狙いがあったからです。

ベテラン労働者の解雇は、熟練技能と経験の切り捨てであり、安全軽視の経営姿勢を表すものです。ベテランのパイロットや客室乗務員を解雇するなどという航空会社は世界中に例がありません。最近の客室で発生した非常用ドアの操作ミスや、機内食カートの飛び出しなど、基本的なミスの連続は、決して異常な労務政策と無関係ではありません。また今年5月、整備の現場で5日間にわたって、重整備作業が中止されました。前例のない事態だと言われています。運航・客室の現場と同様に、整備の現場でも経験者不足が表面化しています。

航空会社の基盤は安全です。安全を支えているのは現場の労働者です。日本航空の解雇事件では、ILOから2度の勧告が出されています。今、日本航空に求められているのは、一日も早く争議を解決して、社員全体が一つになって安全運航に取り組める状況を作ることです。

貴職に於かれましては、是非とも事情をご理解いただき、日本航空本社に対して解雇争議を早期に解決するように、率直なご意見をお寄せいただきますようお願い申し上げます。

<二宮治夫さん手書きの横断幕と松山空港前の宣伝参加者>



日本航空松山支店への要請行動の後、松山空港前で社会保険庁不当解雇撤回闘争支援愛媛共闘会議と合同の宣伝を行いました。

通信労組OBの二宮治夫さん手書き（JALは御巣鷹山を忘れるな！ベテランクルーを職場に戻せ）の横断幕や、通信労組四国支部の仙波秋夫さん手作り行灯も登場しました。

愛媛合唱団や国民救援会の応援も得て、にぎやかで元気の出る宣伝行動となりました。



<仙波秋夫さんの手作り行灯>